



新カーテン、レクチュアー

永代美知代

「又お捨てなすつたの！知りませんく、あの下駄はあなた、こんどの園遊會におよばれなさる、その爲めに買ったんぢやありませんか、本當に呆れちまひますねえ、だから云はない事ぢやない、あなたの五六十錢の粗下駄で澤山だつて、それだのにあなたは、やれそんな安つばいはりつけ桐のは嫌だの、南部表の疊つきでなくつちやいけなないの、鹿皮でもない、鼻緒は小牛に限るのなんのと、本當に贅澤ばかり並べ立て、月末近いなげなしの小使錢の中から、無理やり強つて買はして置いて、今更どの面下げて捨てたの何のと、あなたはよく私の前で云へますね、それもせめて一月位穿いたのなら兎に角、ねえ本當に、馬鹿々々しいぢやありませんか、考へても御覽なさい、たつた一度のたつた一晚の穿料が三圓五十錢ですよ」

「災難だから仕方ないつてそんな事は立派な紳士の云ひ草ですわ、あなたのやうな、のんだくれの、酔つ拂ひの云ふ事ぢやありません、お黙んなさいく」
 「でも帽子だけはどうかやう斯うやら御自分のらしいのが、見つかりましたつて、當り前ですわ、そんな事が些少だつて御自慢なんかになるもんですか、一日一晚何處の馬の骨のだから知れもしない、形も何もつぶれて了つた汗臭い、屑屋にやつたら三錢も置いて行かないやうな汚い帽子を冠つて、うそく其處いらをはうつき歩いた御自分の様子を考へたら、幾らあなたが恥知らずに生れついて居たつて、些少は氣恥かしい思ひもするでせう、私はもう思ひ出して顔がほてつて、冷汗がぞくぞく流れ出しますわ」
 「でも雨のお蔭で外套だけ助かつたんだつて、そんな

事聞いて呆れますわ、そんな根性だからこそ頭からずぶ濡れに濡れちやつて、買ひ立ての下駄まで失くするんです、袴も何もすつくりべとく汚しちやつて、あなたの醜態は何でせう！雨のお蔭が聞いて呆れます何ですつて？雨が降つて來たらこそ、外套も忘れずに著込んで歸れたんだつて、馬鹿くしい、そんな事が自慢にもならねば、云ひ譯にもなりません、帽子から下駄から著て行つただけのものを失くして歸るのが禮式でない以上、勿論の事外套だつた同じぢやありませんか、外套でも失くして歸つて御覽なさい、私どうするか、決してその儘ぢや済ましません、三十八圓なにかしの損害ですものねそれだつて、やつとこの秋死ぬ程の思ひをしてこさへたばかりの物ですもの、下駄だつて當分買つてあげるもんですか、先のがまだ穿いて穿けないと云ふ程でもありませんから、暫らくあ



れで我慢なさい、いゝえ、いゝえ、みんなあなたの自業自得なら仕方ないぢやありませんか、襟なら裸

へ泊つてやつたのを有難く思へつて？あの晩僕が怪し

「足でお歩きなさい。誰だつて皆な、あの日は甚い目に逢つたつて、あなたばかりの災難でなくたつてやつぱり損は損ですは、下駄の失くなつたのも事實だし、頭から濡れ鼠になつちやつて、すつくりドラケンに酔つ拂つたまぎれに、方々梯酒をし廻つたのも事實だし、あぐくの果を伯母さん家へ轉び込んで、一晚家へ歸らず仕舞の、散々私に氣を揉ませたのも事實です。」

「何ですつて？あなたは正氣で仰有つてるんでせうかしら？若しさうなら本當の恥知らずだ、伯母さんの家

げな家へ入り込みでもしたら如何するつて？

『如何するもんですか、叩き殺して了ひます、えいえいもうたいで置くもんですか、一時から一時半までの私の氣持と云つたら解りますまいよ、どうせあなたはやうな男には、今にお歸りなさるか、今に、今にと、電車がなくなつてからも一時間以上待ちました、遠い遠い彼方の方から聞えて来る下駄の音、車の音まで、私には皆な一つ残らず聞えるんですものね、馬鹿々々しい、今頃は何處かの女の酌か何かで、ふざけた真似をしてらつしやるんだらう、さう考へながら私も私は一晩まんざりともしませんでした。



(テーカー難災の、ドンバズハドクツベンへ) い痛程餘が方此もりよアーニチクレン

『だからあなたは馬鹿だつて云ふんですわみいら取りがみいらになつちや何にもなりはしないぢやありませんか、社長から接待役を仰せ付つて、喧嘩を鎮めたり酔らひのなだめ役をしなければならぬのなら、何故一滴の酒も召上らないで居なかつたのです。御自分から酔拂つて、それで酔拂ひのお守が出来たらそれこそ奇蹟だわ

『田邊さんが川へ落ちましたつて？ 福井さんが未だに行衛不明で出社しませんて、よし下さいよそんな話をして下さいよそんな話を休

んで、終日二日酔い苦しみなすつた事と、如何關係もないぢやありませんか

『一體私には何故そんなに酔はなければならぬのか解りませぬ、前後を忘却して、結婚披露の園遊會に上りまはれて行つたその席上で、花嫁花婿を並べて置いて花婿たる社長の罵倒を初めたり、下駄穿きで座敷へ上り込んで寝そべつて見たり、喧嘩を初めたり、何故そんなにしななければならぬ程酒を呑まねばならぬのか

『酔つたばかりぢやない、平生の不平等の勢でさらけ出したんだつて？ 私にはそれが解らない、何故素面では云へないのでせう？ 酔つて云へる事なら素面だつて云へさうなもんぢやありませんか、酔つたまぎれだ何をしたつて構はない、先方でも何とも思つちやくれないだらう、さう思ふ位ならよした方がましですわ、だつて先方で何とか思つて呉れなくちや、折角云つたりしたりした甲斐もない譯ぢやありませんか

『男の癖に、女だつてそんな馬鹿げた事はしませんよ云ひ度の事があつたら、正々堂々と、眞正面から切り出すんですね、酒の勢をかりたりなんかして、その酔に乗じていなくては言ひ度の事一つ云へないやうな、そんな男が何になるもんですか

『御覽なさい、お蔭で私はいくらに息苦しい程どうき足がわななく震へるやうにもなりました。皆あなた一人の心得違ひから、どれ程大した事件になるんだか、あなたにはあなたで、二日酔いで會社を一日お休みなさるし、酒に酔つて好い事と云つたら、一つだつてありやしないぢやありませんか、馬鹿々々しい

『歌目です、何と仰有つたつて歌目です、あなたが伯母の家へ轉り込みなすつた時分の御容子つたらねまつたく見られたものぢやありませんでしたつて、あなたには佐伯さんとか云つた、その御一緒に来た人の面倒を見て居たつもりか知りませぬけれど、佐伯さんの方があなたよりも百倍も確かで、あなたを伯母の家に送り届けて下すつたんですものね

『佐伯さん以上に酔つておた！ それだけで澤山ですわ佐伯さんはあなた有名な酔拂ひぢやありませんか、何時かの夜だつて私達のゐない留守へ入つて来て一人で寝てたりなんかしてさ、それも最初の訪問だから驚ろくわ、あなたとは社で會つて可成りに交際つても被在つたでせうけれど、私とは一面識もない、本當の見ず知らずの關係ぢやありませんか、私あの時歸つて来て

『だからあなたは馬鹿だつて云ふんですわみいら取りがみいらになつちや何にもなりはしないぢやありませんか、社長から接待役を仰せ付つて、喧嘩を鎮めたり酔らひのなだめ役をしなければならぬのなら、何故一滴の酒も召上らないで居なかつたのです。御自分から酔拂つて、それで酔拂ひのお守が出来たらそれこそ奇蹟だわ

『田邊さんが川へ落ちましたつて？ 福井さんが未だに行衛不明で出社しませんて、よし下さいよそんな話をして下さいよそんな話を休

『だからあなたは馬鹿だつて云ふんですわみいら取りがみいらになつちや何にもなりはしないぢやありませんか、社長から接待役を仰せ付つて、喧嘩を鎮めたり酔らひのなだめ役をしなければならぬのなら、何故一滴の酒も召上らないで居なかつたのです。御自分から酔拂つて、それで酔拂ひのお守が出来たらそれこそ奇蹟だわ

『田邊さんが川へ落ちましたつて？ 福井さんが未だに行衛不明で出社しませんて、よし下さいよそんな話をして下さいよそんな話を休

『だからあなたは馬鹿だつて云ふんですわみいら取りがみいらになつちや何にもなりはしないぢやありませんか、社長から接待役を仰せ付つて、喧嘩を鎮めたり酔らひのなだめ役をしなければならぬのなら、何故一滴の酒も召上らないで居なかつたのです。御自分から酔拂つて、それで酔拂ひのお守が出来たらそれこそ奇蹟だわ

『田邊さんが川へ落ちましたつて？ 福井さんが未だに行衛不明で出社しませんて、よし下さいよそんな話をして下さいよそんな話を休

『だからあなたは馬鹿だつて云ふんですわみいら取りがみいらになつちや何にもなりはしないぢやありませんか、社長から接待役を仰せ付つて、喧嘩を鎮めたり酔らひのなだめ役をしなければならぬのなら、何故一滴の酒も召上らないで居なかつたのです。御自分から酔拂つて、それで酔拂ひのお守が出来たらそれこそ奇蹟だわ

『田邊さんが川へ落ちましたつて？ 福井さんが未だに行衛不明で出社しませんて、よし下さいよそんな話をして下さいよそんな話を休

『だからあなたは馬鹿だつて云ふんですわみいら取りがみいらになつちや何にもなりはしないぢやありませんか、社長から接待役を仰せ付つて、喧嘩を鎮めたり酔らひのなだめ役をしなければならぬのなら、何故一滴の酒も召上らないで居なかつたのです。御自分から酔拂つて、それで酔拂ひのお守が出来たらそれこそ奇蹟だわ

泥棒が寝込んでるんかと思つた位、屹度二人で散々其處いらをうろつき廻つて、變てこな眞似ばかりし歩いたんでせう、好い恥つかきだわ、本當に！私あなたやうな恥知らずの細君だと思はれるのも恥かしい！

『川の中へ落ちたと云ふ田邊さんが笑ひものなもんですか、あなただつて今少しで落ちる處だつたに違ひない、よくまあ何處も怪我をしないで済んだ事！私は本當に不思議でたまりませぬわ、腕位折つて來さうなものだのにねえ』可哀相に、眼鏡はなくする、大曲から江戸川へ落ちて、ズボンは流す、チヨツキは捨てる、股引は引裂けるして、脚の方から丸出でとぼく家へ歸つて行つた田邊さんの容子がそんなに可笑しくつて滑稽に思はれる位なら、何故あなたは御自分の醜態をお笑ひにならないの？ 酔つ拂ひの容子は誰だつて皆な同じに醜いものですよ

『馬鹿々々しい、あなた一人が特別で、幾ら酔つ拂つたつて可笑しくない？ そんな譯がある譯がないぢやありませんか、神様ぢやあるまいし、聖人ぢやあるまいし、スバルタの國ぢや毎年お祭にはきまつて、奴隷共にお酒を飲ませて、うん／＼酔つ拂はせて、散々醜態を演じ出させて、それを兎共に見せて兒童教育にするつ

て云ひますね、あなたもそれ程可笑しく感じなのなら、田邊さんに凝りて、もう／＼酒になんぞ酔つ拂はないがよござんす、本當に見つともないつたらありやしないわ』目出度い席だから、つい御酒をお過しなすつたのですつて？ 呆れた云ひ譯ねえ、目出度い席なら尙更謹んで、お酒だつて程に飲まなければなるまいぢやありませんか、喧嘩を初める、花婿を罵倒する、亂暴狼藉を極めて、それが結婚披露によばれて行つた人のするべき禮義でせうか？

『無禮講のつもりで御遠慮なく、幾らさう御主人側からの挨拶があつたからつて、何もそんなにはめを外して、失敬な眞似までしなくちやならないつて法はありますまい

『いけません、いけません、何と仰有つたつてあなたのおまけです、仰有れば仰有る程肩が出て、あなたは猶更馬鹿に見え出すんだもの、もう云ひ譯はおよしなさい、そして黙つて平あやまりにおあやまりなさるがよござんす、下駄はなくする、着物や袴はべと／＼に汚して來る、御覽なさい、あの袴を、あれでも今日一日かゝつて私がよくしたらこそあの位にもなつたんですよ、だらしない！